

企業研修（社員教育プログラム・CSR）事例紹介

## 【株式会社リコー 「リコー自然教室」】



2009 年度より、株式会社リコーの環境保全に関する社員研修を、人と自然の研究所が担当させていただいています。

株式会社リコーは、生物多様性保全を企業存続のための重要な課題の一つと捉え、環境経営に取り組まれています。その一環の社員教育として「環境ボランティアリーダー養成プログラム・リコー自然教室」があり、その企画・運営を人と自然の研究所がビオトープを活用して提供させていただいております。

その事例を簡単にご紹介します。

### 「リコー自然教室」プログラム

#### ●学習編

まずは地球というもののメカニズムから、生態系について、そして生物多様性とは何なのか、どうして大事なのかを、人と自然の研究所代表の野口理佐子が分かりやすく説明していきます。

地球に生きる者として、これからの循環型社会を目指す人間として、知っておくべき内容がたくさん詰まった講義です。



「自分も何かしなければ」という思いをもって集まった社員の皆さんも、ぐいぐいとその話に引き込まれていたようです。

## 「リコー自然教室」プログラム

### ●野外編

実際に現場に出て生物に触れ、その暮らしなどを見ることで生物多様性について学んでいきます。



ビオトープ管理士で、人と自然の研究所ビオトープ再生推進室長の三森典彰より、まずは生きものや自然の「見かた」を説明します。これを身につけないと、そのビオトープや自然がどのような状態なのかがちゃんと判断できません。ここではトンボなどを例にあげ、その「見かた」を説明していきます。



午前中の説明をよく頭に入れ、昼食を挟んでから、ビオトープのある現場に場所を移します。

今回プログラムを行ったビオトープは、人と自然の研究所が改修を行った、埼玉県和光市の農業体験施設の一画にある池型のビオトープです。

チームを分けて植生の調査と、池にいる生きものの調査を行います。これらは、ビオトープがどのような状況なのか、どう管理をする必要があるかなど、ビオトープを評価するのに重要な調査です。



内容は少し堅いように思われるかもしれませんが、実際にリコーの社員の方にその作業を  
実践してもらおうと、植生調査チームは小さなビオトープに沢山の種類の植物が  
いることに感心し、生きもの採捕のチームは「ワーワー」「キャーキャー」言いながらも、かなり楽し  
んで生きもの探しに夢中になっていました。「昔よくやったけど最近は何も...。懐か  
しくてとても楽しい！」と言ってくれる社員の方などもいました。

生きものは採捕した後、その種が何なのか同定する（種名を調べる）必要があります。  
この作業をしっかりとやらなければ、ちゃんとした評価ができないからです。

人と自然の研究所スタッフが同定方法の説明をし、社員の皆さん自ら顕微鏡を使うなどし  
て、ヤゴなどの水生生物の同定をしてもらいました。



このようにして得られた植物と生きもの調査データをもとに、このビオトープがどのよ  
うな状態で、どういった管理が今後必要かという評価を行っていくのです。

その後、現場では虫たちが嫌う外来種のミント等を抜き取る管理作業を行いました。



そして、最後に社員の皆さんからの感想などをいただき、自然教室・野外編は終了となり  
ました。

参加者の皆さまからは、「非常にためになった」「とてもおもしろかった」「身の回りにこんなに色々な生きものが暮らしているのを初めて実感した」「普段の生活から自然を見る目が変わりそう」「仕事でお客様に環境活動の一環として話す内容が増えた」など、沢山の感想をいただきました。

**Gaiaia** ～リコー社会環境ポータル ガイ  
アイア～



## 「リコー自然教室」プログラム

### ●実践編

2010年2月、リコー自然教室の実践編として、池型ビオトープの造成を一から学ぶプログラムを実施しました。造成した場所は都会のど真ん中、東京都港区青山にある青山小学校です。

ビオトープは大きな自然再生ではありませんが、都会の中の数少ない自然をつなぐ、懸け橋となりうる存在です。都会に生きもののネットワークを取り戻すため、また、環境教育の教材としても活用できるよう、ビオトープの造成を行っていきます。



まずはコンセプトをしっかりと決めます。それがないばかりに、ほったらかしにされて荒れてしまったビオトープは少なくありません。そのコンセプトをリコー社員の方と小学生が一緒になって考え、しっかりと共有してから作業を進めていきます。



池型ビオトープは、全国の小学校でも造られているところはいくつもあると思います。しかし、「バイオ（生きもの）トープ（場所）」なのに、生きものがないビオトープも珍しくありません。どうしてでしょうか？そういったことも考えながら、リコー社員の方に造成していただきました。

コンセプトをもとに、形や大きさが決まったら、しっかりと測量を行っていきます。

その後、遮水シートを敷き、土を入れて踏み固め、地域で採れた水草をみんなで植えていきます。



途中からは子どもたちも一緒になって作業を手伝ってくれました。



ビオトープ管理士である人と自然の研究所スタッフから植えつけの方法を教わり、リコー社員の方が子どもたちと一緒に水草を植える姿はとても微笑ましい光景でした。最後に水を入れ、青山小学校の池型ビオトープが完成です。



生きものは、基本的には導入せず、自然にやってきてくれるのを待ちます。生きものを入れてエサをやってしまつては、それは単なるペットになってしまいますからね。これで番外編の自然教室は終了です。つくった当初はただの水溜りのようですが、生きものが動き出すのはこれからの季節。みなさん春・夏を楽しみに解散していきました。

その後は、リコーの自然教室担当の方が、毎週定点観測を行うことになりました。そして、春・夏になると、色々な生きものがやってきてくれました。このビオトープを自分たちの生息場所として気に入ってくれたようですね。



生きものがくるようになると、担当の方以外にも、ビオトープを造成したリコー社員の皆さんも、時おり観察をしに青山小学校に来てくれるようになりました。やはり、自分たちでつくったビオトープとなると、愛着もわくし、気になるようですね。

今後は、もっと生きものが来られるように、野外編で行ったような調査や管理も行っていく予定です。

リコー自然教室は、自然教室という名前ながら、都市部に近い埼玉県の小さなビオトープや、港区の青山にある小学校を使って行いました。

生物多様性や自然環境については、大自然と呼ばれる森や湿地だけで学べるものではなく、身近な自然の一部でも、その見かたを知れば十分に学ぶことができます。リコー社員の皆さんにも、生物多様性や、自然の見かたについて、しっかりと学んでいただくことができたのではないのでしょうか。

---

#### ■企業の皆さまへ

企業の皆さまが、もしCSR活動や社員教育などで生物多様性や自然環境を取り上げたいとお考えでしたら、是非一度、人と自然の研究所までお問い合わせください。ご相談の上、各企業ごとに最適なCSR活動や社員教育活動をコーディネートさせていただきます。

---